

## 思考・認識・判断を表す英語動詞 (3)

友 繁 義 典

人間環境部門

## English Verbs of Thinking, Cognition and Judgment (3)

Yoshinori TOMOSHIGE

School of Human Science and Environment, University of Hyogo

1-1-12 Shinzaike-honcho, Himeji, 670-0092 Japan

This paper examines the meanings and usages of *figure*, *gather*, *guess*, *imagine*, *reckon*, *take it*, *bet*, *understand* and *expect* which are called verbs of thinking, cognition and judgment. After looking at the nature of these verbs, the discussion moves to consider why there are so many verbs of thinking, cognition and judgment in English.

Keywords; *that* complements, *to*-infinitive complements, small-clause complements, semantics, pragmatics

## 1. はじめに

「思考・認識・判断を表す動詞 (1)」では *believe*, *think*, *consider* 及び *know* に関して、また、「思考・認識・判断を表す動詞 (2)」では *suspect*, *suppose*, *assume*, *presume*, *find*, *acknowledge*, 及び *deem* に関して考察を行った。本稿では、上記以外の思考・認識・判断を表す *figure*, *gather*, *guess*, *hold*, *imagine*, *reckon*, *take it*, *bet*, *understand* 及び *expect* に関して、それらの意味と用法に関して見ていくことにする。<sup>1</sup> また、英語にはなぜ数多くの思考・認識・判断を表す動詞が存在するのかに関して考えてみることにする。

2. *figure* に関して

この動詞は、LEA によると、米語であるという説明があり、その定義は、*to form an opinion about something after thinking about the situation* とある。そして、例文として A 型の *We figure that they must have got in*

*through the back window.* があげられている。また、OALD では、この動詞は、*informal* であると述べられており、*to think or decide that sth will happen or is true* と定義づけられている。さらに、LDOCE は、*to form a particular opinion after thinking about a situation* と定義しており、この動詞を特に米語の口語としている。以上のことから、*figure* は、主にくだけた米語として用いられているようであり、日常的な口語表現とすることができるであろう。この動詞は、A 型と B 型においてその生起が許される。また、A 型と言っても *that* を用いず、*figure* の後に節が続くパターンが多いことが COCA で確認できる。その理由は、この動詞がくだけた口語表現として用いられているからであると考えられる。

以下に COCA から検索した *that* を伴う実例と *that* を伴わない A 型と B 型の実例をあげておく。

- (1) a. I figure that everything I do influence my kid.
- b. I figure we should introduce ourselves.
- c. But few figured him to be in the lineup before the All-Star break.
- d. I figured her to be seventeen or

<sup>1</sup> 本稿においても、動詞に *that* 補文が後続している文を A 型、*to*-不定詞補文が後続している文を B 型、そして小節 (Small Clause) が後続している文を C 型と呼ぶことにする。また、英英辞典の省略語も、「思考・認識・判断を表す英語動詞 (1)」「思考・認識・判断を表す英語動詞 (2)」と同様の表記を用いる。

eighteen, but ...

ユースプログレッシブ英和辞典初版は、figure が A 型と B 型に現れるとしているが、A 型が圧倒的に多いという事実を BNC の検索結果から得ている。また、A 型においては、that が省略されることが多いとしている。実際、COCA を検索してみても that 抜き「I figure+節」型が千件以上見つかる。この事実は、ユースプログレッシブ英和辞典初版の BNC 検索から得られる結果と一致する。C 型に関しては、この型の例文を記載している英和辞典は少なく、リーダーズ英和大辞典第 3 版に、He figured himself (to be [as]) a good candidate. の例が記載されており、to be は optional となっている。また、ジーニアス英和大辞典初版にも、He figured it (to be) the best plan. の例が見られるが、この文においても to be は optional となっているが、両英和大辞典では、B 型に加えて C 型も認められているということになる。恐らく、figure は、C 型で用いられることが少ないように思われる。その理由は、上記の英和大辞典以外の英和辞典においては、figure が C 型で許されている例文の記載が見当たらない上に、COCA を検索してみても、この型で figure が用いられている例として以下の 3 例が見つかる程度である。

- (2) a. ... the whole nation, including his family, figured him invincible.
- b. I figure myself a soldier for the Atrays.
- c. He's taken one lousy business courses at the community college and figured himself a wheel-dealer, as if ...

以上のことから、figure は、A 型、B 型及び C 型のいずれの型においても生起するが、C 型についてはその例は少ないということが分かる。

ちなみに、この動詞は、It figures that ~ の構文の中で、「～は予想 [計算] 通りだ」の意味で用いられることもある。以下に COCA からの例をあげる。

- (3) a. It figures that Wilson's career is concluding with more inconsistency.
- b. It figures that drug retailers should thrive, too.

### 3. gather に関して

この動詞の定義は、OALD によると、to believe or understand that sth is true because of information or evidence you have とある。また、LDOCE によると、to believe that something is true because of what you have seen or heard とある。これらの定義から、この動詞は、話し手の持っている情報や証拠に基づいて、思考や判断の意味を表すことが分かる。この動詞の第一義は「集める」であるので、観察などを通して（仮定的な）知識を集めることを意味するものと思われる。また、この動詞も、figure と同様に、A 型において多くその生起が許されるようである。OALD には、I gather (that) you wanted to see me. と I gather from your letter that you're not enjoying your job. の例が記載されているが、B 型や C 型に gather が生起している例は見当たらない。

I gather は、挿入節的な特徴を持っており、文頭、文中、文末のどこにでも現れる (Wierzbicka 2006:211)。確かに、COCA を検索してみると、この種の I gather が現れている事例が 1 2 7 8 件見つかる。

以下で、それらの中から I gather が文頭、文中及び文末に現れている例を 3 つだけあげておく。

- (4) a. I gather Chasley and the cat are not friendly.
- b. You parked in front of the stream, I gather?
- c. And something that obviously he's working very hard on, I gather, in the coming week with Mr. Fedrow.

OALD や LDOCE の情報だけを見ていると、gather は、もっぱら A 型においてのみ用いられるような印象を与えられるが、実際、この動詞はほとんどの場合に A 型に生起すると考えられる。上ですでに述べたように、COCA では、挿入句的に I gather が用いられている事例が 1 2 7 8 件見つかるという事実もこの裏付けとしてよいであろう。また COCA でも、B 型は極めて少く、Did you gather him to be sincere? が一件見つかるのみである。C 型に関しては、COCA においても見つからない。したがって、gather は主に A 型においてその生起が許されるのが通例であり、B 型に現れる可能性は極めて低く、C 型に至っては皆無としてよいように思われる。さらに、どの英和辞

典も、B 型や C 型を記載していないことを追記しておく。

#### 4. guess に関して

この動詞は米語でよく用いられており、意味的には suppose に非常に近いとされているが、guess の方がぞんざい (brusque) でよりきっぱりとした (more decisive) 意味を持っているという (Wierzbicka 2006:209)。OALD によると、guess はインフォーマルであり、その定義は、to suppose that something is true or likely とあり、例文として I guess (that) you'll be looking for a new job now. や He didn't see me, I guess. があげられている。

Wierzbicka (2006:210) によると、guess は、I guess so. の形でよく用いられるという。また、この動詞は、何がしかの陳述、要請、招待などに対する同意の意味を表すが、そのことに躊躇していることを示すのに用いられる (OLT)。このことを Wierzbicka (2006:210) が次のように説明している。

- (5) For example, if someone asks me if I will do something (say, go to a party) and I reply "I guess so." I would be implying that I don't really know, but that at the moment I think I will go, and moreover, that if I have to say something about it right now, then I choose to say this (=I will go").

また、guess は、「～だと思う」の意味では、もっぱら A 型に現れ、次のように、「推測する」の意味では B 型に現れることを以下で確認しておくことにする。

以下の例文はそれぞれ COCA に見られる実例である。

- (6) a. He kept quiet on that and guessed her age to be somewhere in the early range of forty.  
b. I guessed him to be at least four inches over six feet, if not more.  
c. Unable to discover a secret in either trace, I guessed them to have been left at least two days before ...

「推測する」を意味する guess は、B 型で用いられるが、C 型では許されないことを以下で確認しておこう (小野

2007:233)。

- (7) a. \*I guessed her age somewhere between fifty and sixty.  
b. I guessed her age to be somewhere between fifty and sixty.

#### 5. hold に関して

思考動詞としての hold は、フォーマルなレベルで用いられるとされる。この動詞に対して to have a belief or an opinion about sb/sth の定義が OALD でなされている。先ず、この動詞が、A 型に現れている例を見ておくことにしよう。

- (8) a. I still hold that the government economic policies are mistaken. (OALD)  
b. The judge held that the child's interests in this case must come first. (LDOCE)  
c. He holds that the state of pure nature is impossible within the only world order known to us. (COCA)

また、次の OALD に見られる (9a) と LDOCE に見られる (9b) のように、この動詞が B 型で用いられる場合というのは受動態の文の中に限られるようである。

- (9) a. These vases are held to be the finest examples of Greek art.  
b. She was held to be one of the most talented actors of her time.

この動詞に関して、Quirk et al. (1985:1196) は、A 型と B 型に生起するが、C 型には生起しないと述べている。しかしながら、COCA で検索してみると、次の (10a) (10b) のように、hold が、C 型に現れている例があることが確認できるが、実際、Huddleston and Pullum (2002:265) においても (10a) や (10b) の類例である (10c) の例が見られる。

- (10) a. And I hold you responsible for the death of my husband.  
b. I hold him responsible for his own actions.  
c. I hold you responsible for her safety.

このように、hold は C 型においてもその生起が許される例があることが確認できる。<sup>2</sup> 尚、C 型に関して、LDOCE には hold sb responsible/ accountable/ liable (for sth) の項目が設けられている。LDOCE によると、この表現は、to say or decide that someone should accept the responsibility for something bad that happens を意味する。恐らく、hold が C 型で用いられる場合は、使用される形容詞は responsible が典型的であるようである。なぜなら、(10a) (10b) 及び (10c) においてもすべて形容詞は、responsible が使用されているからであり、一種のセットフレーズになっていると言ってもよいように思われるからである。

以上のように、hold は、A 型、B 型 (受動態の形で) 及び C 型のいずれの型においても用いられるということが分かる。

## 6. imagine に関して

imagine は、LDOCE では、to think that something is true, but without being sure or having proof と定義づけられている。この動詞は A 型で用いられるとして、A very complicated subject, I imagine. と You are obviously tired and I imagine that nothing would make you admit it. の例があげられている。また、OALD では、imagine は、to think that sth is probably true と定義づけられており、A 型の I don't imagine (that) they'll refuse. の例が載せられている。Quirk et al. (1985:1196) によると、imagine は、3 つの補文の型のすべてに生起するという。この動詞が A 型に現れている例は上で見た通りであるが、実際、COCA で検索してみると、B 型においても生起す

ることが確認できる。次の例はいずれも COCA からの検索された文である。<sup>3</sup>

- (11) a. I imagined him to be more eminent, but he was mean and distant; he could have been a probation officer.  
b. I imagined her to be quiet, with dark hair and ...

C 型に imagine が許されている例は、少ないものと思われる。確かに、Quirk et al. (1985) が述べているように、スーパーアンカー英和辞典第 4 版には、C 型の可能性もあるとする Imagine yourself (to be) a billionaire. の例が見られる程度である。

また、「...を〜だと思ふ」の意味は、「imagine ... as ~」のパターンで表現される。以下に COCA からの実例をあげておく。

- (12) a. I imagined him as a musician pianist, or maybe a cellist.  
b. I imagined him as a kind of deity; all power in his hands, confused him with God because he bore God's name, Father.

ちなみに、imagine に過去分詞が後続している Imagine yourself taken back to your childhood. のような例文が、ユースプログレッシブ英和辞典初版に見られるが、このような imagine AC の型は、「A が C (の状態) であることを想像する」の意味で用いられている。

また imagine は、consider と同様に、その補部に -ing 形を許す動詞でもある。小野 (2007:231) が、その例として次の (13a) をあげている。また、文主語と補文内の主語が違う (13b) や (13c) の例が、COCA において見られる。

- (13) a. I imagined doing such a stupid thing day after day, year after year.

<sup>2</sup> hold に関しては、受動文ではなく能動文である B 型と C 型も許されるとして I hold myself (to be) responsible for the accident. の例がオーレックス英和辞典初版 (2008) に見られる。また、アドバンストフェイバリット英和辞典初版 (2002) には、The jury held him guilty. の記載があり、判決・評決では、通例 to be を省略すると説明している。

<sup>3</sup> その他、A 型の例としては、I don't imagine (that) they'll get here much before 6. (彼らが 6 時よりかなり早くここに着くとは思えない) の例がウィズダム英和辞典第 3 版 (2013) に見られる。



- b. I imagined him weighing the economics of the situation.
- c. In my mind I imagined her rocking back and forth, arms hugging her chest, head dropped.

ところで、*imagine* は、OLT や LEA によると、特にイギリス英語の口語で用いられると説明されている。しかしながら、*I imagine* のフレーズは、*that* 補文をとる形で COCA においても見つかるので、イギリス英語特有の表現とは言い切れないように思われる。ここで、この *I imagine* のフレーズについて少し見ておくことにする。Wierzbicka (2006:235-6) は、*imagine* は、*I think* と *I don't know* の二つの意味成分を持っている点において *I suppose* に非常に近いが、*I imagine* の方が、より非現実的な性質を持っている点が違うと述べている。それは、やはり、*imagine* の第一義が、*to form a picture or idea in your mind* (LDOCE) であるからに他ならないからであると考えられる。つまり、「想像する」が *imagine* の第一義であることから、それが非現実的なことを思うことに直結するからである。したがって、*imagine* が *unreal* な性質を持っているとする説明に無理は感じられないわけである。

ちなみに、Wierzbicka (2006:236) は、“*I suppose* (a supposition) implies more or less momentary thought—actual, not potential, and unrelated to fancy, images, or mental pictures ...” と、*I suppose* に関して説明している。したがって、*I suppose* は、「ほぼ瞬間的に現実的な事柄について思う」ことを意味することになる。

以上のことから、*imagine* は、通例 A 型と B 型に現れるが、C 型に現れないこともないがその例は極少ないとしてよいであろう。<sup>4</sup>

## 7. reckon に関して

LEA では、*reckon* は、話し言葉であり、*to have an opinion about something and say what it is* と定義されており、補文は *that* 補文が後続するとして、*They reckon (that) the French team's better than ours.* を例文として

あげている。OALD では、*reckon* は、インフォーマルであり、*to think sth or have an opinion about sth* と定義づけられており、*I reckon (that) I'm going to get that job.* の例が記載されている。

さらに、LDOCE では、*reckon* は、特にイギリス英語であり、*to think that something is a fact, or have a particular opinion about something* と定義づけられており *Wayne reckons we ought to call her.* と *Do you reckon they'll get married?* の例文が紹介されている。B 型と C 型の例は上記の英英辞典では見られないが、Quirk et al. (1985:1196) によると、*reckon* は、A 型、B 型及び C 型のいずれにおいても生起するという。COCA で検索すると、能動態の B 型は見つからないが、受動態の B 型は見つかる。以下に実例をあげておく。

- (14) a. The reconstruction of Kuwait is reckoned to be a five year job.
- b. Among the lower ranks at the Yard, Madden was reckoned to be queer one.

上の例文のように、*reckon A to be* は、しばしば受け身の形で用いられるとウィズダム英和辞典第三版に説明があり、*Ken is reckoned (to be) the best player in Japan.* を例にあげている。また、ユースプログレッシブ英和辞典初版においても、*He is reckoned (to be) the leading authority in the field.* の例があげられており、この例のように、普通は受身で用いられると説明されている。

しかし、アドバンストフェイバリット英和辞典初版には、能動文の例、*He reckons Katherine Hepburn (to be) the greatest actress ever.* があげられている。確かに、数は少ないが、COCA においても、次のような能動文の B 型の例があることが確認できる。

- (15) a. Sam reckoned him to be about his own age.
- b. ... I reckoned him to be less accurate than Yusuf Amuda ...

以上のように、*reckon* は A 型、B 型、C 型すべての型においてその生起が許される動詞であることが確認できるが、この動詞も C 型に現れることはあまりないようである。

<sup>4</sup> Dixon (2005:204) は、*think* と *consider* と同様、*imagine* も C 型に生起すると述べている。

## 8. take it に関して

OLT によると、take it はややフォーマルな表現であり、to suppose that sth is true を意味するという。OLT は、I take it you won't be coming to the party. の例をあげている。この take it の特徴は、例えば、I take {it/\*ø} (that) you are enjoying yourself. (Quirk et al 1985) のように、たとえ that が省略されることがあっても、常に that 補文が後続するということである。この take it は、例えば、You take it that ... や He takes it that ... のような形で用いられる場合もあるにはあるが、主語が一人称単数である I を伴う「I take it (that) + 節」の形式が典型的に用いられる。この表現は、先行文脈や何らかの支えとなる状況設定が存在しない場合には使用できないところがその特徴とされており、これは、assume が先行文脈なしで、何かを仮定するのに用いられることと対照的である。OALD では、take it (that...) の定義は、単に、to suppose; to assume とだけあり、例文として、I take you won't be coming to the party. があげられているだけである。この定義では、take it は、suppose と assume と同義であるという情報が得られるだけで、それらの動詞との違いについては不明である。LDOCE は、take it (that) に関して、used to say that you expect someone will do something, know something etc と説明し、I take it you've heard that Rick's resigned. の例を記載している。この説明から、誰かが何かをするであろうという予測(予想)を表したり、あるいは誰かが何かを知っていることを表すことは理解できるが、この情報からでは実際にどのように take it が用いられるのか明らかではない。

以下では、英和辞典で take it に関してどのような説明あるいは例文の記載があるのか見ることにしよう。アドバンストフェイバリット英和辞典初版では、この表現は会話において用いられ、相手に確認を求めるのに用いられるとして、I take it we have no classes this afternoon. の例をあげている。ユースプログレッシブ英和辞典初版では、take it that 節は、「...ということを事実だと思う」を意味すると述べられ、We take it that you are one of our members. の例があげられている。スーパーアンカー英和辞典第4版では、take it that に関して、it は that 以下をさす形式目的語で、that は省略されることもあったと説明し、I take it (that) he has an alibi. の例文を記載している。ジーニアス英和辞典第4版では、take it は「推測する」「...だと思う」を意味するとし、As I take it, she won't

be coming. を例にあげ、この文は、I take it she won't be coming. と同義としている。ウィズダム英和辞典第3版は、take it に関して、この表現を口語表現とし、「...だと思う」「解釈する」を意味すると説明している。また、take it が、時に挿入節として、I take it that's a typing error. のように使われるという。また、オーレックス英和辞典初版では、take it の訳語として、「...であると思う」「了解する」を当てており、it は that 節をさすと説明して、I take it you already know about his promotion. を例文として記載している。

以上のように、take it に関して、英和辞典によってそれに対応する日本語訳はまちまちであるということが分かる。また、上で見たように OALD においてさえ、take it は suppose あるいは assume と同義であるとする説明しか見られない。以下で、この「take it that 補文」の形式を take it that 構文と呼ぶことにして、その特徴について若干考察をすることにする。<sup>5</sup>

まず、Nicholas Sparks の小説 Dear John から、I take it が文頭と文末で用いられている実例を以下にあげておく。

- (16) a. I straightened. "I saw you talking to Randy." I said, trying to keep my voice neutral.  
She squeezed my hand. "You did, huh?"  
I tried again. "I take it you two got to know each other while you were working."  
"We sure did. I was right, too. He's a nice young man ..."
- b. "You've met them, I take it?"

上で見られるように、I take it は I think や I suppose と同様に、挿入節的に用いられることが分かる。いわば、I take it は、補文命題が真であることを弱く主張する節としての働きをしているわけである。

実際、take it that 構文に関して、大竹 (2004) や五十嵐 (2013) において論考が見られる。

まず、大竹 (2004:82) は、take it that 構文に関して、

<sup>5</sup> Bolinger (1977) は、take it that 補文を慣用表現 (idiom) と捉えている。

次のように主張している。

- (17) It はある命題が話し手の知識において情報としてすでに確定していることを積極的に合図する。S+take+it+that 節構文は、主語の指示対象が何らかの根拠をよりどころに、that 節内の命題内容を確定した情報（既定情報）として理解に取り込む過程を表現する。

大竹 (2004) によると、it が that 節内の命題を指示し、かつ、その情報が既に話し手の知識として確立しているという。したがって、大竹 (2004:85) は、次の (18a) は、自然であるが、(18b) が不自然であることを説明できている。

- (18) a. I take it that today is your birthday.  
b. I take it that (\*) today is Sunday.

「今日があなたの誕生日である」ことは目の前の大きなケーキや花があるような状況や先行文脈が整っていれば推論可能な内容であるが、「今日が日曜日である」かどうかは、普通、何がしかの事実を根拠として推論するという内容ではないとする旨の主張が、大竹 (2004:85) においてなされている。つまり、上でも少し触れたように、大竹 (2004) も、この構文は、先行文脈や状況のない状態では使用不可能と考えているということになる。大竹 (2004) の分析では、it が that 節内の命題を指示し、それと同時にその情報が話し手の念頭に既にあることになる。したがって、(18a) の today is your birthday という命題は、既獲得情報ということになる。このように、(18a) に関しては、大竹 (2004) の説明が有効であるように思われる。しかし、五十嵐 (2013:106-107) は、次の例をあげて、この that 節内の命題が既に話し手にとって既知の情報となっているとする説明があてはまらないと述べている。

- (19) “Janine have received your results from the bar exam yet? Janine’s face fell, “Yes.”  
“I take it from your expression that you failed.”

(19) の take it that 構文では、推論の根拠は下線部の

from 句で表現されている。つまり、この例では、直前の Janine の様子が引き金となって that 節内の you failed という内容が推論されるに至ったとすることができる、というのが五十嵐 (2013) の主旨である。つまり、that 節内の内容は話し手にとって既知の情報ではなく、発話時において得られた情報であるということが可能ということになる。(19) では、Janine が司法試験に合格したか否かが問題となっており、Janine が受かったか否かの二つの推論が結論の候補となるわけだが、Janine ががっかりした顔つきで Yes と答えたことを根拠に前者の可能性がなくなり、一義的に後者を推論の結論として導かれたことが I take it 構文において表現されているという (五十嵐 2013:109)。五十嵐 (2013) の主張と大竹 (2004) のそれには違いがある。もちろん、take it that 構文は、発話文脈に存在する根拠から、推論の結論が得られたことを言い表すのに用いられるわけであるが、両者の主張の違いは、五十嵐 (2013) が、推論の結論が「一義的に」得られたことを表す、としているところである。

いずれにせよ、この構文は、何かについて推論をし、そこから得られた結論を聞き手に確認するために用いられるものと考えられる。Wierzbicka (2006:230) は、take it that 構文に関して、この構文の機能は yes-or-no question のような疑問文あるいはそれに相当するようなものでないかと述べているが、これは、聞き手に話し手が推論して出した結論が真であるか否かを確かめる機能があるというのと同じであろう。興味深いのは、この構文は、次のように、疑問文として用いられることがある点である ((16b)も参照)。以下に COCA から実例を2文あげることにするが、いずれの文も聞き手に that 節内の命題が真であることを確認していると解釈することができる。

- (20) a. I take it that you don’t like Andrew Jackson?  
b. I take it that you do not believe in God, Mrs. Warne?

五十嵐 (2013:108) は、「take it that 構文は、発話文脈に存在する根拠から、一義的に導かれた推論の結論を表す」と主張している。この主張の妥当性に関しては議論の余地が残っているように思われる。しかし、紙幅の関係で、この構文に関しては、今後、更に考察をする必要があることを指摘するに留める。

## 9. bet に関して

OALD では、bet に関して、used to say that you are almost certain that sth is true or that sth will happen と説明がある。また、この動詞はインフォーマルであると記してある。例文として、I bet (that) we're too late. があげられている。また、ELDOCE では、bet に関して used to say that you are fairly sure that something is true, something is happening etc, although you cannot prove this と説明されている。この動詞は、I bet や you bet のような表現で多用される。I bet は、実際にはどうなるか結果は分からないが、何かが起こることをかなりの確信をもって述べる場合に用いられるが、それは bet 自体に「(お金を) 賭ける」という意味が第一義としてあるからに他ならないであろう。したがって、I bet は、I feel absolutely certain と等価ということになる (Wierzbicka 2006:236)。I bet は文頭、文中また文末にも生起するが、圧倒的に文頭に生起する率が高いことが COCA で確認できる。以下では、COCA で見られる実例をあげておく。

- (21) a. I bet she's fun at cocktail parties.  
b. To you, I bet we look a head of fools.  
c. ... he wouldn't be going to the gym, I bet.

この動詞は、英和辞典及び英英辞典のいずれにおいても B 型や C 型に現れている例は見当たらない。したがって、この動詞はもっぱら A 型にのみ生起するとしてよいであろう。

## 10. understand に関して

OALD では、understand は、to think or believe that sth is true because you have been told that it is と定義されている。そして、A 型の 'I understand (that) you wish to see the manager,' McLeish said. の例が記載されているが、この型の文は、事実を確認するのにしばしば用いられるという。また、LDOCE では、to believe or think that something is true because you have heard it or read it と定義されており、I understand that he was 62 when he died. の例があげられている。また、It is understood (that) のように、形式主語を用いた受動態のパターンも用いられる。例えば、LDOCE では、It is understood that the Queen approves of her nephew's romance. また OALD には、It is understood that the

band are working on their next album. のような例があげられている。

この動詞は B 型においても現れることが COCA で確認できる。以下にその例をあげる。

- (22) a. When we first looked at Jeff Zack, we understood him to be a typical suburban father.  
b. I understood them to be upstairs when they disappeared.

Borkin (1984:77) は、次のように、understand は、C 型では許されないとしている。

- (23) a. I understand Frank to be willing to compromise.  
b. \*I understand Frank willing to compromise.

また、Wierzbicka (2006: 233) は、I understand は、I think よりも確信度が高いが、完全に確信を表す I know には届かないと述べている。この I think と I know の中間に位置するのが I understand であるというのが、Wierzbicka の主張である。

以上のことから、understand は、A 型と B 型に現れるが、C 型には現れないようである。

## 11. expect に関して

「～を予想する」「～を予想する」が expect の第一義であるとしてよいように思われるが、主にイギリス英語において、この動詞は think や suppose と同義で用いられることがある。しかしながら、expect が意味的に think や suppose と等価であるとはいうものの、expect 自体に、未来志向の意味合いが内在しているとしてよいように思われる。LDOCE では、expect は、to think that you will find that someone or something has a particular quality or does a particular thing と定義されている。この定義においても、you will find という表現が見られるが、この表現そのものも、未来指向の意味を表していることは明らかである。実際、expect は、LDOCE によると、expect to do sth, expect sth/sb to do sth, expect (that) などのパターンで用いられるとしている。もちろん、expect そのもの



が相互に関連のある幾つかの意味を持っているので、ここでは、「～と思う」を意味する *expect* の統語的な振舞いだけに注目することにする。COCA で検索すると、「～と思う」を意味する *expect* は、A 型と B 型には現れるが、C 型に現れることはないようである。以下に A 型の例と B 型の例をあげる。

- (24) a. He expects that more victims will be named, and that more suspects will be arrested.  
b. I expect the singing to be impeccable.

次に、*I expect* に関して、少し見ておくことにする。この表現は、*I think*、*I believe* あるいは *I suppose* と並んで、補文命題の真理値に関して話し手のためらいを表す定型表現となっているように思われる (Quirk et al. 1985:1114)。つまり、補文命題に関して断定を避けるクッション的な役割を果たしているのがこれらの表現ということになる。ただし、Thompson and Mulac (1991:321) は、FLOB コーパスの検索結果として、*think* を含む表現の中で、*I think* の形が 9.5% を占め、その頻度は極めて高く、その一方で *I expect* は、278 例中、10 例のみが検索されるという。したがって、*I expect* はまだ定型表現になっているとは言えないが、*I think* は、一種の談話標識詞として一つの定型表現となっている感がする。

*I expect* も、*I think* ほどではないにせよ、一種の談話標識句としての機能を持ち合わせており、*I think* と同様に、文頭、文中、文尾のいずれの位置にも現れ得る。以下で COCA で検索したその例を見ることにする。

- (25) a. I expect they'll be here in about two more days.  
b. After quite a lot of searching, I expect, you have found my red diary.  
c. They're meaning to cheer us up, I expect.

*I expect* は、18 世紀中頃から少しずつ使用されるようになり、19 世紀以降、文頭だけではなく、文中、文尾においても使用されるようになったという (秋本 2011:104)。上の各例は、現代英語の例であり、上で述べたように、*I think* より *I expect* はその頻度が低く、談話標識に近づ

きつつある段階にあるとしてよいように思われる。<sup>6</sup>

以上、*expect* について若干見たが、「～と思う」を意味する *expect* は、A 型と B 型に現れるが、C 型には現れないようである。

## 12. 思考・認識・判断を表す動詞に関するまとめ

これまで、「思考・認識・判断を表す英語動詞 (1)」及び「思考・認識・判断を表す英語動詞 (2)」において、いくつかの動詞を観察したが、それらと本稿で観察した動詞がそれぞれ、A 型、B 型及 C 型のどの型で用いられるかを以下の表にまとめておく。尚、動詞の後続要素として *that* 補文を伴う文は A 型、*to*-不定詞補文を伴う文は、B 型、また小節補文を伴う文は C 型として区別していることをここで繰り返しておく。

以下の内容を整理してみると、次のようになる。ほとんどの動詞が A 型、B 型、C 型のすべての型に現れる。しかし、C 型には現れない動詞には、*acknowledge*、*expect*、*figure*、*gather*、*guess*、*know*、*suspect*、*take it*、*understand* などがある。尚、*bet*、*gather*、*take it* に関しては、それらは、A 型にのみ現れる。また *know* は、認識を表す動詞としては C 型で許されることはないが、感覚動詞としての *know* は、C 型に現れる場合がある。また、*imagine* と *suppose* に関しては、それらが、C 型に現れることがあるにはあるが、その例は極めて少ない。また、*gather* が B 型に現れることは極めて少なく、COCA では、この型で許されている例は一件のみであった。

	A 型	B 型	C 型
<i>acknowledge</i>	○	○	○
<i>assume</i>	○	○	○
<i>believe</i>	○	○	○
<i>bet</i>	○	×	×
<i>consider</i>	○	○	○
<i>deem</i>	○	○	○
<i>expect</i>	○	○	×
<i>figure</i>	○	○	×
<i>find</i>	○	○	○

<sup>6</sup> *I think* と *I expect* を COCA で検索すると、*I think* は、339086 件、*I expect* は、2670 件のヒットがあった。これは用法を度外視した数字だけの比較ではあるが、両者の使用頻度の違いは非常に大きいことだけは確かである。

gather	○	×	×
guess	○	○	×
hold	○	○	○
imagine	○	○	○
know	○	○	×
presume	○	○	○
reckon	○	○	○
suppose	○	○	○
suspect	○	○	○
take it	○	×	×
think	○	○	○
understand	○	○	×

### 13. おわりに

英語には、I think をはじめ、I suppose、I reckon、I guess、I assume、I presume、I suspect また in my opinion、it seems to me のような表現が豊富に存在する。このような表現が英語に豊富に存在する理由は何であろうか。Wierzbicka (2006:28) に “Native speakers of English, including linguists, seldom seem to be aware of the extent to which English is perceived by cultural outsiders as the language of understatement.” という興味深い説明が見られる。英語話者は、自分が述べる事に確信がない場合には I think に代表される様々な控えめな表現を用いる。その理由は、Wierzbicka (2006:25-34) が述べているように、英語話者は、何かについて語る場合に正確さを理想とし、控えめな表現を使うことを良しとしているからではないか。控えめな表現の多様性の存在理由については、今後掘り下げて検討する必要があるが、このことに関しては稿を改めることにしたい。

### 参考文献

- 秋本実治. 2011. 「文法化と主観化」『ひつじ意味論講座 5 主観性と主体性』東京：ひつじ書房
- Bolinger, D. 1977. *Meaning and Form*. London: Longman.
- Borkin, A. 1984. *Problems in Form and Function*. Norwood, New Jersey: Ablex Publishing Corporation.
- Dixon, R.M. W. 2005. *A Semantic Approach to English Grammar*. Sec. edition. Oxford: Oxford University

Press.

Huddleston, R. and G. Pullum.. 2002. *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.

五十嵐慶太. 2013. 「take it that 構文に関わる推論過程とその生起条件」『英語語法文法研究』20, 104-117.

大竹芳夫. 2004. 「S+take+it+that 節構文の意味と談話機能」『英語語法文法研究』11, 79-93.

小野経男. 2007. 『英語類義語動詞の構文事典』東京：大修館書店.

Quirk et al. 1985 *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.

Thomson, S. A. and A. Mulac. 1991 A quantitative perspective on the Grammaticalization of epistemic parentheticals in English. In Elizabeth, C, T and B, Heim (eds.) *Approaches to Grammaticalization 2*: pp. 313-330. Amsterdam: John Benjamins.

Wierzbicka, A. 2006. *English –Meaning and Culture*. Oxford: Oxford University Press.

### 辞書・コーパス

- 『エースクラウン英和辞典』2012. 東京：三省堂.
- 『アドバンスト・フェイバリット英和辞典』2002. 東京：東京書籍.
- 『アンカーコズミカ英和辞典』2008. 東京：学習研究社.
- 『ジーニアス英和大辞典』2001. 東京：大修館書店.
- 『ジーニアス英和辞典』第4版. 2006. 東京：大修館書店.
- 『ライトハウス英和辞典』第6版. 2012. 東京：研究社.
- Longman Dictionary of Contemporary English. 5<sup>th</sup> ed. 2009. Harlow, Essex: Pearson Education Ltd.
- Longman Essential Activator. 2<sup>nd</sup> ed. 2006. Harlow, Essex: Pearson Education Ltd.
- Oxford Advanced Lerner's Dictionary of Current English. 8<sup>th</sup> ed. 2010. Oxford University Press. (OALD8)
- Oxford Learner's Thesaurus: A dictionary of synonyms. 2008. Oxford University Press.
- 『オーレックス英和辞典』2008. 東京：旺文社.
- 『ルミナス英和辞典』第2版. 2005. 東京：研究社.
- 『新英和中辞典』第7版. 2012. 東京：研究社.
- 『スーパー・アンカー英和辞典』第4版. 2011. 東京：学研教育出版.

『ユースプログレッシブ英和辞典』2004. 東京：小学館.

『ウィズダム英和辞典』第3版. 2013. 東京：三省堂.

The Corpus of Contemporary American English.  
(COCA)

(平成 27 年 9 月 30 日受付)